

総合研究概要書原稿サンプル

応用数理研究室 BV???? 数理 科太郎 指導教員 大宮 シス子 教授

1 はじめに

これはシステム理工学部数理科学科の総合研究概要書のサンプルです。このフォーマットを参考にして作成してください。おおむねこのような形式に従っていれば多少の変更は問題ありません。詳細は指導教員の指示に従ってください。

2 箇条書きの例

2.1 番号付き

1. 数値・数式処理システムの開発・解析・応用
2. 非線形偏微分方程式の逆問題解析
3. 数理形態学による画像処理

2.2 番号なし

- コンピュータをもっともっと進化させたい
- ソフトウェアをもっと使いやすくしたい

3 図の挿入

図の挿入には `\includegraphics` を使うのが一般的です。figure 環境を使うと、図をフロートして (浮か

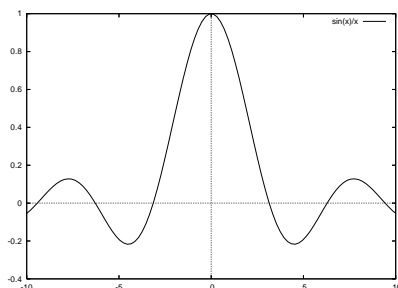


図 1: 図のキャプションは図の下側に配置。

て), 適当な位置に配置してくれます。表も同様 (table 環境)。

`\label` を指定しておけば, `\ref` で図番号の引用も可能。例えば, “図??は gnuplot による” など (ダブルクォーテーションの書き方も注意)。表番号も同様 — 表??は点数表 — ですが, `\caption` が自動生成する図番号と表番号はデフォルトでは別系統になっています (それぞれ 1 から始まって, 別個に増加する)。

4 参考文献の参照

参考文献の参照も同様 (`\bibitem` で指定したラベルを `\cite` で呼び出し)。例えば, 阿部先生, 古城先生達が書かれた数値解析の教科書 [?] 参照, など。

ただし, \LaTeX は 1 パスコンパイラ (タイプセッタ) であり, ラベル・図番等の引用は外部ファイル `???.aux` を通して行っている関係で, これらを正しく処理するにはコンパイル (タイプセット) を 2 回以上かける必要があります。

5 その他

概要集をは電子データでの提出なので, カラーを使っても構いません。

なお, このサンプルは 2 ページ目の半分以下で終わってしまいますが, 皆さんは 2 ページ右の段までほぼ埋まるくらい, バランスよく書くよう心がけてください。参考文献も忘れずに。その他, \LaTeX の使い方は各自で学んでください。

参考文献

- [1] 阿部剛久 他, 数値解析入門, 昭晃堂, 1992.
- [2] 柴田徹太郎, Three-term spectral asymptotics for the perturbed simple pendulum problems, 日本数学会 2004 年度秋季総合分科会関数方程式論分科会講演アブストラクト, 22-23.
- [3] T. Shibata, Precise spectral asymptotics for the Dirichlet problem $-\Delta u = \lambda \sin u$, J. Math. Anal. Appl., **267** (2002), 576-598.
- [4] <http://www.sic.shibaura-it.ac.jp>